

# 稲美町教育委員会議事録

- 1 開催日時 令和5年12月21日(木) 開会 15時00分  
閉会 17時00分
- 2 開催場所 稲美町役場305会議室

## 3 会議に付した事項

### 日程第1 諸報告

- (1) 行事・経過報告について
- (2) 12月・1月の行事予定について

### 日程第2 報告

報告第18号 専決処分したものに承認を求めることについて  
専決第18号 専決処分書(令和5年度12月補正予算に係る意見について)

報告第19号 専決処分したものに承認を求めることについて  
専決第19号 稲美町立幼稚園の今後のあり方策定検討委員会設置要綱の制定について

報告第20号 専決処分したものに承認を求めることについて  
専決第20号 専決処分書(稲美町立幼稚園の今後のあり方策定検討委員の委嘱について)

### 日程第3 議案

議案第13号 稲美町学校給食協議会設置要綱の制定について

### 日程第4 協議

- (1) 令和5年度稲美町教育支援委員会の答申について

### 日程第5 その他

- (1) 11月分問題行動件数について
- (2) 令和5年度第3回稲美町中学校部活動地域連携・地域移行推進協議会の報告について

(3) はたちのつどいについて

(4) 第 272 回稲美町定例会の一般質問の回答について

#### 4 出席委員

教 育 長	北 谷 錦 也
委 員	後 藤 哲 夫
委 員	本 多 澄 子
委 員	高 田 道 夫
委 員	松 田 緑

#### 5 出席職員

教育政策部長	沼 田 弘
教育課長	奥 陽 一
学校教育担当課長	野 邊 久 美
管理担当課長	前 田 浩 二
人権教育課長	瀧 口 泰 広
生涯学習課長	赤 松 嘉 彦
文化の森課長	中 嶋 聖 仁

#### 6 開 会

##### 教育長

委員の皆さまにおかれましては、お忙しい中ご出席をたまわり、誠にありがとうございます。  
なお、松田緑委員ですが、遅れるとのご連絡をいただいておりますのでご報告いたします。

本日の会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第3項の規定により定足数に達しております。よって、会議が成立しておりますので、ここに開会いたします。

本日の議事日程は、お手元に配付いたしております。

次に、会議の傍聴を希望する者が3名ありますが、許可することとしてよろしいか。お諮りします。

##### 各委員

異議なし。

##### 教育長

ありがとうございます。それでは、稲美町教育委員会会議規則第 19 条の規定に基づき、許可することといたします。

傍聴人は入室してください。

次は、議事録の承認です。11月の定例会議事録をお手元に配付いたしておりますが、これを承認いただけますか。

##### 各委員

異議なし。

教育長

「異議なし」の声をいただきましたので、議事録は承認されました。

次は議事録署名委員の指名であります。議事録署名委員は、稲美町教育委員会会議規則第16条第2項の規定により、教育長から指名いたします。本日は松田緑委員にお願いします。

続きまして、私から、日程第1、諸報告ですが、別紙資料の通りです。

続きまして、各課より報告をお願いします。

教育課 (報告内容省略)

人権教育課 (報告内容省略)

生涯学習課 (報告内容省略)

文化の森課 (報告内容省略)

教育長

各課の報告について、何かご意見があればお願いします。

高田委員

2 ページの教育課の行事予定のところ、1月12日(金)にグローバル意識UP研修ということで、STEM教育について研修をされるということで、STEM教育というのは、簡単に言えば理工系というか科学、技術、工学、数学、そういう教育を総称した言葉です。考え方として、日本が国際競争力が落ちてきて大変だということで、AI時代で理科や数学をどんどん教育して、レベルアップして外国に負けないようにしようという。これ自体非常に大事なことですが、その次の議論として、それだけではいけないんじゃないか。この教育委員会でも出たと思うんですが、AをつけてSTEAM教育でしょうか。Aというのは、アートということで、それがやっぱりないことには、いくら理数系で頑張っても、諸外国に太刀打ちできないのではないかという議論が広がりつつあると思うんです。ですから、講師の先生は、そういうこともご存じだと思うんですが、せっかくの機会ですから、理数系を乗り越える研修にさせていただけたらと思います。

教育長

事務局の方から、グローバル意識UP研修の簡単な説明と、どういった目的でやられているのか、そして今回の研修の内容を説明していただけたらと思います。

野邊課長

グローバル意識UP研修は、国際理解教育の一つということで、グローバルな視点を持って先生方に教育活動を行ってほしいということで始まっております。始まりの時は、外国語の小学校での導入ということがありましたので、英語のスキルアップと申しますか、英会話やコミュニケーションを重視していました。しかし、英語の教科化が始まって、そちらの方は順調に進んでおりますので、今多様な子ども達が増えておりますので多文化理解ということも合わせて、グローバルということに重点を置いて、ここ2、3年、先生方の研修を行っております。兵庫教育大学のグローバル教育を専門にされている先生に来ていただいて研修をしています。昨年はSDGsについて取り組みましたし、今年度は様々な教育課題ということで海外の教育の中で、例

えば特別支援教育とか、音楽芸術教育とか、放課後の教育とか、昨年度末に参加された先生方から来年どんなテーマで研修を受けたいですか、というアンケートをとりまして、その中で今年の実践を行っております。その先生方からのリクエストの一つに、STEM教育というのが出てきましたので、今回はそのことについて取り上げています。

日本の中の科学とか、そこら辺の連携ということもありますが、海外の中でもどのような取組をされているのかということ講師の先生には教えていただいて、もちろん理数系にとらわれることなく、アートな部分もありますし、先月のこの会では、国語の学力テストの中で読解力の事も話題になりましたので、文学の視点も交えてお話をさせていただこうと考えています。

#### 後藤委員

今の研修会のことで私も質問したいことが1点あったのですが、いろんな今社会が変わりゆく中で、教育の中身をどう考えていかなければいけないか。時代の流れに沿った課題について研修をしていくことに大賛成なんですけど、最初、英会話が中心になって行われた。それは希望者の先生だったんです。

最近内容が、いろいろ社会問題だとか、こういうSTEM教育だとか、そういったことになってくると、できるだけたくさんの先生方にできれば研修をしてもらいたいと思います。まだ、やはり希望者が来られるということですか。

#### 野邊課長

それぞれのテーマごとに希望者を募っているところです。学校行事等都合もありますので、できるだけ多くの方ということはお声がけはしているのですが、希望された方に研修を受けていただいています。年6回7回開催しているんですが、どれかに1回は行こうという感じで、参加している学校もありますし、興味を持たれて2回3回4回と来ていただいている方もいらっしゃいます。

#### 後藤委員

別件で12月26日に予定されている稲美町立幼稚園の今後のあり方検討委員会ということで、今日この後でもその委員の方の構成についての話があると思いますが、今度2回目ということなんですよね。主な検討項目といいますか、課題といいますか、そういったことについてはある程度予想はつくんですが、やはり園児数の減少が見込まれる中でどういうふうにしていくかというようなことが中心なんですか。

また他にも検討課題の中心になるようなものを教えていただけたらと思います。

#### 前田課長

第1回を11月に開催したんですが、第1回目は集まっていた幼稚園の先生から、どういった課題、どう感じているかという意見を吸い上げる会議でした。あと、保育園、こども園の園長先生にもご出席いただいたので、それに関連して、それぞれの園の状況等をお話いただくという会を開きました。

その中で、園から出てきた内容としては、やはり園児数が減ってきたところで、実施というのちょっと絡んではくるんですが、異年齢教育の関係であったりとか、特別な支援を必要とするような園児さんが少し増えてきていることでの対応であったりとか、職員会議等の時間の確保、先生と園児の触れ合い以外の園での運営に係る部分での活動時間をどういうふう確保していくかという課題というのが今回見えてきました。2回目については課題であったりとか、事務局からの提案であったりとか、その辺りでまた検討の方を進めていきたいと考えております。

教育長

先ほど高田委員、後藤委員から質問がありましたが、グローバル意識 UP 研修とか、あるいはスキルアップ研修とか、先生方の自主的な参加ということで進めています。時期とか内容によって若干の違いはあるんですが、大体 20 名前後の先生方が参加してくれています。今までですと、一斉の研修とか、上からの研修が多かったんですが、先生方の学びたい意欲を大切にしたい研修を進めていきたいということで進めていますので、今後さらに周知に努めていきたいと思っておりますし、これが先生方にとって本当のスキルアップに繋がってほしいと思っています。

それから今、後藤委員から質問がありました、町立幼稚園の今後のあり方検討委員会、11 月は最初の会でしたので、委員の皆さんの顔合わせと、それぞれ今感じている課題を出し合うというところでした。実は私が最初の報告の中で、保育園、こども園を回らせていただいたのも、そこからいただいた課題で、確かにそうだなと感じたことがあったからです。こども園、保育園の先生、園長先生はその送り出した子どもが小学校で、しっかりと集団生活に馴染んでいるのだろうか、それに向けて保育園や、こども園や幼稚園も同じですが、やっていることが、小学校にどう繋がっていくんだろうというそういう不安を、課題として挙げられていました。そこで、やはりまず私たちがこども園、保育園を、知ることからということで、訪問させていただきました。またその声を聞きながら、小学校との連携を今後計画していきたいと考えております。

また、この検討委員会の中で、いろいろ課題をいただいたことを一つずつ、その課題解決に向けて、何かできることを今探っているというような状況です。

次は、日程第 2、報告第 18 号 専決処分したものに承認を求めることについて、専決処分書「令和 5 年度 12 月補正予算に係る意見について」を議題といたします。事務局から提案理由の説明を求めます。

沼田部長 (説明内容省略)

教育長

このことについて、何かご意見はございませんか。

高田委員

この 9 ページの表のところに内容として、放課後児童クラブ一時金ということで、金額が計上してあるんですが、この一時金というのは、単純に考えて、ボーナスとか、そういうことで解釈してよろしいのでしょうか。

何のためにそういう質問をしたかということ、放課後児童クラブというのは指定管理者が変わって、変わる理由としては当然、実績とか、あるいは見積もりの金額とか、そういうことは、考慮をされると思うんです。

これは私が以前あるところで指定管理者であったということから気になるのかもしれないんですが、単純に私がこの言葉から推測したのは、当初決められた金額では、例えば指定管理者のもとで日々活動しておられる先生方がちょっと苦しい。だから補助をするという、それは私自身が非常にいいことだと思っているんですが、そういうふうにして、単純に喜んでおけばいいのかなという。それをお聞きしたいと思って。私はダメだと言っているわけではなくて、いいことですよと。先生方が頑張るきっかけにでもなればよいなと思ってお聞きします。

沼田部長

原油高とか、そのような形で国の方でも、全体的な物価が上がっている、給食の分でも原材料が上がってたりしています。その分で上がったりはしていますが、これも国の補正に伴うもので、この金額につきましては定員人数、人数に応じた形でいくらあたりということは決まっておりますので、そこの中での国庫支出金の中の補助金に基づいた補助です。

個々の児童クラブの現状がどうかではなしに、一般的な物価高騰対策ということで、それを食糧費とか、光熱費とか、日々の運営にあてていただく、そういう形になっています。

教育長

高田委員から質問があった職員の皆さんへの手当とかそういうものではないということですね。

沼田部長

そういう意味ではないです。

教育長

他にご意見がないようですので、これより採決に入ります。報告第 18 号は、原案のとおり承認することにご異議ございませんか。

各委員

異議なし。

教育長

ご異議なしと認めます。よって、本案は、原案のとおり承認されました。

続いて報告第 19 号 専決処分したものに承認を求めることについて、専決処分書「稲美町立幼稚園の今後のあり方策定検討委員会設置要綱の制定について」及び報告第 20 号 専決処分したものに承認を求めることについて 専決処分書「稲美町立幼稚園の今後のあり方策定検討委員の委嘱について」を議題といたします。事務局から提案理由の説明を求めます。

前田課長 (説明内容省略)

教育長

このことについて、何かご意見はございませんか。

本多委員

委員の構成についてなのですが、各校区から一人ずつ出されてあります住民代表者というのは、児童生徒の保護者の方は何人いらっしゃるのですか。

前田課長

住民代表の方については、各幼稚園の評議員から選出しているという形になります。保護者の方というわけではありません。

教育長

他に、何かご意見はございませんか。

ご意見がないようですので、これより採決に入ります。報告第 19 号及び 20 号は、原案のと

おり承認することにご異議ございませんか。

各委員

異議なし。

教育長

ご異議なしと認めます。よって、本2案は、原案のとおり承認されました。

次は日程第3 議案第13号「稲美町学校給食協議会設置要綱の制定について」を議題といたします。事務局から提案理由の説明を求めます。

前田課長 (説明内容省略)

教育長

このことについて、何かご意見はございませんか。

後藤委員

学校給食はずっと以前から行われていたわけで、今改めて学校給食協議会というのが、設置されるということになったというのは何か理由があるのでしょうか。

これまでは各学校の給食関係の先生の代表だとか、そういった方々が集まって来られて運営に関していろいろ相談されてきたと思いますが、改めてこういう形になったというのはどういう経緯なのでしょうか。

前田課長

こちらの協議会の設置につきましては、令和7年度に稲美町の学校給食、今現在は私会計でさせていただいていたのですが、令和7年度より、公会計の移行を目指しております。

私会計の間につきましては、委員のおっしゃられた通り、学校給食運営委員会の方で、その都度問題について協議の方をさせていただいていたのですが、公会計になるということで、こちらの方の協議会の方に協議が移っていく予定としております。

教育長

今、事務局の方から説明がありましたように、学校給食会計の公会計化に向けた動きの中で、協議会の設置ということでもあります。

他に、何かご意見はございませんか。

ご意見がないようですので、これより採決に入ります。議案第13号は、原案のとおり承認することにご異議ございませんか。

各委員

異議なし。

教育長

ご異議なしと認めます。よって、本案は、原案のとおり承認されました。

次は、日程第4、協議事項(1)「令和5年度稲美町教育支援委員会の答申について」を事務局から説明願います。

奥課長 (説明内容省略)

教育長

このことについて、何かご意見はございませんか。

高田委員

全部で93名の方の進路が書いてあるのですが、まず質問としては例えば23ページの小学校の継続・退級予定者というところで表があるわけですけど、この中で通常学級が適切と書いてある子が5名か6名7名かありますが、この通常学級が適切と、書いてある子たちが退級と判断してよろしいですね。

奥課長

はい。

高田委員

わかりました。

では、この状況は、今回の審議の結果なのですが、できましたらこの結果というのは、退級する子6、7名というのは、従来と比べて多いのかあるいは少ないのか、あるいはこの全体の93名というのが傾向として多くなっているのか、あるいは減少しているのか、その辺りのことを教えていただけたらと思います。

奥課長

先ほど委員のおっしゃった退級して通常学級で学ぶ者の割合というところは、これはその年ごとで変動がございますので、一概にこれが多い少ないはちょっと難しいところがございます。ただ、それぞれ保護者との面談を行い、また医師の判断も含めた上での適切な審議結果であるということは報告できるところです。現在のこの全員審議にかかってきた人数につきましては過去から比較すると、徐々に増えてございます。それぞれが多様な面での支援が必要だということで、通級という学級もございますが、少しずつ増えて、学校としては支援をしているところです。

高田委員

多様な学び方が広まってきたというふうな言葉を聞いて納得しました。ありがとうございます。

教育長

私の方から確認をしたいのですが、教育支援委員会の答申につきまして事前に保護者、本人と面談を学校でしていただいたと思うのですが、保護者とか本人の希望と答申が異なるということはあったのでしょうか。

奥課長

保護者がどのように考えているのかというのは、事前に確認をしてその場で報告いたします。その中で先ほど教育長がおっしゃったように、本当にその希望で適切であるかを各学校から現状の指導についての説明等を行い、校内の支援委員会も実施されておりますので、基本的には保護者の思いと、この審議結果というのが、同じ状態ではございます。

ただこの答申を受けた後であっても学校の中で、保護者の方に説明した上で、最終的に判断



するのは保護者になりますので、この結果がそのまま来年度イコール通常学級、特別支援学級となるわけではないというところも付け加えさせていただきます。

教育長

もう1点、小学校で7名、中学校で1名の特別支援学級で学んでいた方が、通常学級で学ぶということで、今までの努力の成果だとは思いますが、それで通常学級で学ぶことに関しては、本人、保護者も非常に不安もあると思うんです。通常学級内での支援体制、今町内の小学校でどのようなものがあるかというのを説明していただけたらと思います。

奥課長

まず、学校では、交流学級があり、児童生徒が特別支援学級以外に、通常学級で学習するという場を設定しております。

その中で、来年度は通常学級で学ぶということになれば、徐々にその割合も増やしながら、次年度に不適應にならないように、よりよく学校生活に入れるような対応をしています。もう1点、先ほど少しお話いたしました、通級がございまして、その中で、この子に応じた自立活動を必要とするのであれば、その指導をしていくということになります。

教育長

委員会の中には、お医者さんで専門家であったりとか、学識者にも入っていただいて、審議していただいているのですが、このような稲美町の状況、学びの場の変更、そういう状況については全体的に何か意見とかそういうのはなかったでしょうか。

奥課長

県立特別支援学校の学校長が会議の中で、稲美町の教育支援委員会について、資料が充実していること、各校からは特別支援のコーディネーターが、校内支援委員会の様子を適切に話していること、そしてその場の意見のやりとりも、非常に充実しているとおっしゃっておられました。

松田委員

この件に関しまして、まだ知識がないので教えていただきたいのですが、この審議をされる時に、ドクターの診断書もあった上で、全員の方がドクターの診断書と保護者の方の言い分、学校とでお話されているのでしょうか。

奥課長

医師の診断や専門家による発達検査の結果など、児童生徒の状況がどうであるのか客観的に掴む資料は提出されております。

教育長

十分な資料の中で審議されたということで、非常に委員の皆さんも安心されていると思うのですが、それぞれ保護者、本人に各学校の教育支援委員会の方から丁寧に、伝えていただいて、またその際、面談していただいて保護者の声、子ども本人の希望もよく聞いていただいた上で、その支援を継続していただきたいというのは、また事務局の方から学校の方に確認をしていただけたらと思います。

奥課長

学校と丁寧な連携を行い、今後も子ども達の成長に繋がるようにしていきます。

教育長

他に、何かご意見はございませんか。

ご意見がないようですので、協議事項を終わります。

次は、日程第5、その他(1)「11月分問題行動件数について」を事務局から説明願います。

奥課長 (説明内容省略)

瀧口課長 (説明内容省略)

教育長

このことについて、何かご意見はございませんか。

後藤委員

27 ページのいじめの件ですが、小学生3年生の困りごとアンケートから学校の方が知って指導ができたということがありました。困っている子どもが、教師に相談をしたと。そして中学校の方でも、恐喝に関係することが、保護者が子どものお金の所持について不審な点があるということで見つけて、それを学校に知らせてくれた、そこから指導ができたということです。両方とも、先生が信頼され、そして保護者からも学校が信頼されて指導が進んでいっているということですね。やはり子どもと教師、保護者と学校の間で信頼関係があって成り立つわけなので、こういう機会を、つまり、困りごとアンケートをするとか、それから、保護者の方にも、もし、気が付くことがあったら、ぜひ学校の方と相談させてくださいということ、PTAなどを通じて、事あるごとにお伝えするという姿勢が、普段の取組の中で大事なことだと思っています。

中学生にしても、2年生前後で、なかなか親とも口を聞かないこともよくありがちな年齢なのですが、稲美中学校も稲美北中学校も連絡ノートといいますか、担任との連絡帳といいますか、そういったことを続けている方が多いとは思いますが。やはり自分の悩みとか、そういったことを文字に書いて、他の信頼できる方と、相談ができるという、そういう体制を取っておくということも大事なことなのではないかなと思います。

ぜひ続けていただいて、また子ども達には、いじめは学校として絶対に許さないことなので、しっかり君たちを守って取り組んでいくからというふうな決意表明というのでしょうか。私、いろんな学校でいろんな問題が起こっていることも、いまだにこのニュースでいろいろ聞かれますが、子ども達は先生の姿勢といいますか、取り組みの様子というか、そういったものを見ていると思うんです。問題があって相談したらこういうふうにしてくれる。すごく安心できることだろうと思うんです。そういう子ども達の心の安定をといいますか、安心して学べるという、そういうふうなものを作っていく上でも、校長先生をはじめとした先生方の子ども達に対する決意表明、「もし何かあったらこういう手段で、連絡してくれたら取り組むよ」ということを伝えておくということ、これからもよろしくお願ひしたいと思います。

奥課長

学校では、対処的な対応をするのではなく、今委員がおっしゃっていただいたように、積極的に生徒指導を行っています。日々どういった考え方をしているのか、子ども達には説明しておりますし、保護者にも機会をとらえて、年度当初の集まりや、学期の面談を使いながら学校の姿勢を見せていけるように、今後も連携して実施していきたいと思っています。

高田委員

今後藤委員が、学校内で理想的な形での指導ができて良かったとおっしゃったんですが、全く私もその通りだと思うんです。

資料に恐喝が入っていて、私もびっくりしまして、過去1年間ほどのこの議案を見直したんです。そしたらやっぱり1件もなかった。たまたま1年間で私にとって初めての発見であることが一つと、後藤委員が言われたことの具体的な経験を、私自身が中学生の時に受けてしまったということです。どんなことだったかいつも個人的なことを話して恐縮ですが、私が行った中学校で、一年生になった5月に父親から言われて、加古川にあるものを父親の知り合いのところに届け物があった。その届け物をするためにピカピカの自転車に乗って行った。そしたら途中で5、6人の中学生に取り囲まれて、前へ進めなくなった。そのときの恐怖っていうのはものすごいものでした。自転車を壊されるのではないか、あるいは父親から頼まれたものが取られるのではないか、そういう恐怖がものすごくありました。

結論的には、5分ぐらいだったと思います。私が取られたのは、50円でした。50円というのはその時私が持っていた全財産です。50円というのはどの程度かという、1966年の5月でしたので、今から何年前かちょっと計算しにくいですが、一月の小遣いが300円の時の50円だったんです。

そのことよりも、ものすごい恐怖を覚えました。もしも父親から頼まれたそのものを取られてしまったり壊されたりしたら、どうやって謝ったらいいのかと。そういうふうな短い間の恐怖感を忘れることはできないのです。

今思えば私を取り囲んだ5、6人はそれほど大した気持ちじゃなかったと思います。かわいらしい中学生が来たなど。おそらく中学2年生、3年生から見たら1年生というのはかわいらしいもんだと思います。ちょっとおどかしてやろうかというぐらいの、いたずらにすぎなかったと今では思えるわけですが、私にとっては一生忘れません。もうそれから、60年近く経つわけですが、まだ覚えています。

私は加古川の言われたところへ行って、その物をその人に渡した後、あんまりにもやっぱり腹が立ったんで悔しくて、当時国道2号線沿いに加古川の警察署があり、そこに行ってこの辺りでこういうことが起こったという話をしました。そしたら、刑事さん2、3人の方がおられて、20分ぐらいですが、ちゃんと話を聞いていただいた。その悔しさ悲しさは刑事さんが、受けとめてくれたと。

確固たる誰かというのはわからない、どこの中学生かもわからない。推測はできますけどね。だから君がここに来てくれたことはちゃんと書いておいて、今後の警察の仕事の材料にするからと言ってくださった。それでようやくおさまりがついたということです。

帰って親2人に話すのも、またお前がぼやっとしとるからだ怒られるということで親にも言わなかったし、あるいは中学校の先生にも言わなかったです。唯一警察の方が受けとめてくださったということで、今の私に繋がっていると思っております。

おそらく恐喝というのも、もう一度言いますと、する方にとっては大した気持ちじゃないと。

代々昔はこの稲美町史の話を聞いていますからね。やっぱり稲美町の地域から出るということは、昔はもっとその縄張りというのはきつかったです。小学生は例えば加古地区から出られない。中学生になったら稲美町内は行けるけれども、稲美町外に行ったら大変な目にあうと。そういう時代が、戦前あるいは戦後間もなくあった。戦後20年ぐらい、まだそういう伝統がほかから来たよそもの中学生小学生は、やってまえとか、そういう伝統が続いていた最後の名残だと思うんです。

それがあったということをお伝えしたいのと、その校内のことで、ちゃんとした保護者の方あるいは警察の方、学校の先生方でちゃんとした指導ができたということは、本当に良かった

とも先生から言っていただいて、私も同じようなことが言えると、嬉しくなったぐらいです。ということで私の体験を話させていただいたということで以上です。

奥課長

恐喝ということは対象に被害を受けた人がおることは当然ですので、そういった子どもの心情的な面も含めて、これからも継続してケアしていけるようにいたします。

本多委員

サテライト教室について質問なのですが、参加した子ども達の様子であったり、保護者の方の反応というか感想があったら教えていただきたいのと、それと以前、保護者支援を研修とした形で考えていますとおっしゃっていましたが、その後どのように進んでおりますでしょうか。

瀧口課長

サテライトですが、体験活動ということで加古大池でニュースポーツである、ボッチャ、モルック等をさせていただきました。普段体を動かしていない子ども達が多い中、皆さん、結構疲れたと言いつつも、楽しそうにやっていました。感想としては、子どもなんで、しんどいとか言うんですが、顔は笑っているので、充実した活動ができているのかなと思います。

保護者からはちょっとまだ意見の聴取はしてはいないんですが、やはり通級生以外の子が、何かしら興味を持って参加してくれています。帰ってきて同じ子がまた来てくれているので、楽しい活動なので引き続き来ていただけているのかなと思います。

研修会は、もう講師も決まっております、内容も不登校の初期の対応などを教えていただくような形で今進めているところです。

また年明けには、チラシを配布できたらと今進めているところでございます。

日時が決まっており、2月8日(木)の14時半から総合福祉会館で開催されます。

本多委員

それは全保護者に配られるのですか。

瀧口課長

小中学校、ちょっと幼稚園はまだ考えていないですが、小中学校の全児童生徒に配布しようと考えています。

教育長

私の方から確認をさせていただきます。この不登校のところで、小学校の児童の学校数が多いというのと、今まで欠席の理由を「その他」でカウントされていた子ども達が、困っている児童、あるいは支援を必要としている児童ということで、学校の認知認識が広がった結果、ということで合計の部分はそんなに変わってきてないと思うんですが、以前から中学校の場合は「その他」は少なかったですね。

子どもの発達段階の違いがあつて、子どもの方から困っているということを先生方に話ができたりする中で、支援を必要としているということで、不登校という表現がどうなるかというのがあるのですが、そのあたりで小学校の児童の数が増えているのかどうかそこら辺りをちょっともう少し説明をしていただきたいです。

瀧口課長

昨年度まででしたら、「その他」の中にコロナ不安の子が入ってきていたんですが、今はもう

コロナ禍が明けまして、コロナ禍が不安だから休むという子はいません。コロナ不安だけじゃない児童や、病気だけではないなというところを学校は判断して、不登校の方に入れたという数が、今現在多くなっていると思います。

教育長

この3年間のコロナ禍の中で、コロナ不安であつたりとか、あるいはコロナ感染とかそれで休んでしまった。それが尾を引いてちょっと学校への登校が難しくなっている子ども達というふうに理解してよろしいでしょうか。

瀧口課長

そう理解していただいたらいいかと思います。

全部が全部そうではないかとは思いますが、その傾向があるとういうことでございます。

教育長

その子ども達に学校としては、困っている子ども困っている家庭に支援が必要であるということで、不登校、児童ということでカウントしていただいている、その認識が広がったということでしょうか。

瀧口課長

学校の先生も、もうこれはコロナ不安ではなくて、やはり登校を渋っている、また登校に課題があるというような認識を持ち始めたところで、不登校にカウントする学校も増えているということでございます。

教育長

学校の方、先生方も寄り添って、そういう子ども達と向き合っていると思うんですが、やはりなかなか学校だけでは、あるいは家庭だけでは難しいと思いますので、今ふれあい教室や教育委員会で行っていること、しっかりと周知していただいて、先ほどの研修会もそうですが、多くの方に知っていただく努力を続けていただけたらと思います。

瀧口課長

3学期にもう1回、先生、児童生徒にチラシを配布しますし、各中学校、また今天満小学校にも部屋ができつつあるのですが、校内ふれあいルームについては、校長先生が学校だより等で、お知らせしながら、進めていただいております。今後も周知をすすめていきたいと考えています。

教育長

次は、(2)「令和5年度第3回稲美町中学校部活動地域連携・地域移行推進協議会の報告について」から(4)「第272回稲美町定例会の一般質問の回答について」を事務局から説明願います。

奥課長 (説明内容省略)

中嶋課長 (説明内容省略)

沼田部長 (説明内容省略)

## 教育長

このことについて、何かご意見はございませんか。

## 後藤委員

29 ページの部活動の地域連携・地域移行のことです。毎回細かく報告をしていただいて、よくわかって嬉しいんですが、今回ちょっと先行して、例えば吹奏楽部のことが学校関係者としてそこに出ていると思うんです。コスモシンフォニックウインズの活動、今、経過状況見させてもらったら、非常に理想的な形だなというふうに思うんです。

ぜひこういう成功例が、二つ三つ四つ五つと続いていってくれと、とても良いことだなと思うので、保護者と一緒をしているなんていうのは素晴らしいじゃないですか。卒業生と現在の中学生が交流できる。本当に発表会も目指して一緒にできるなんてのは、もう本当に文化活動として、ますます地域に根を張っていくと、こうなれば理想的な形だなと。これをとても大事にさせていただいて、それを目指してみんなでやっついこうということにしたらどうかと思います。

副会長さん、会長さんの発言の一番最初に中心に置くべきは子ども達、頑張っている子ども達の活動はしっかりとという、そういうことを考えていただいているのも非常にありがたいと思います。

考えてみると、中学生になって初めて自分で学びを選択できます。他のものは教科にしる何にしる、全部用意されている。しかし、部活動だけは自分で選べる。

これが大きいと思うんです。選択をし、自分がどう頑張ったかという結果も出る。大体こうスポーツで勝負がありますから。努力したら報われる。また、失敗しても反省をして、次に目指して頑張っていこうとたくましさというか、勝っても負けても意義があります。だからそういうものをぜひ今後とも、しっかりと繋いでいっていただきたいと思います。大変でしょうが何年かけてでも、コスモシンフォニックウインズに続いて、引っ張っていただきたいと思います。

## 教育長

この前の冬景色でも、お母さんとお父さんが同じ楽器を2人並んで演奏している姿もありました。終わった後、音がどうのこの親子げんかをしていましたが、それもいいなと思います。ながら、こういう成功例をしっかり作っていきたいと思います。

## 松田委員

33 ページ、この内容とちょっと関係ないかもしれないんですけど、ALTについてお伺いしたいと思います。稲美町にお住まいで小学校に通わせていらっしゃるお母様方からちょっとお伺いしたお話なんですけれども、ALTの先生がよく代わられるということをお聞きしまして、どこの国の先生がビザの関係とか、そういうところはどのようになさっているか教えていただけたらと思います。

## 野邊課長

ALTの先生は、派遣業者で、その基準に合った方を選考していただいて、稲美町に派遣いただいております。

ビザの関係というよりは、基本、日本にお住まいの方を中心に派遣をしていただいております。

しかし、ご本人の体調不良等が、このたび続きまして、中学校の方で、ALTが、混在していたというのは事実です。

体調不良等でALTが退職するという事になった場合は、その間サポートということで、派遣業者からこれまでにALTとして勤務経験のあるベテランの講師を稲美町に配置し、授業については滞りなく行っているという状況です。

また、3学期からも新しいALTが派遣されて、中学校の方の授業を進めていくというところがあります。

#### 教育長

できるだけ子ども達に迷惑をかけないように、また、委員会としても頑張っていきたいと思えます。

私の方から本多委員が以前、中学校のふれあいルーム、存在について何かちょっと声を聞いたような事をお聞きしたんですが、ふれあいルームが、子ども達にとってどのような存在か、ふれあいルームがあることが、子ども達にとってどういういい効果が生まれているようなお話、うれしいお話を以前お聞きしたことがあると思うんですが、ちょっと紹介していただけますか。

#### 本多委員

以前、ふれあいルームというのは、どちらかというと隔離されていて、教室から離れた場所にあったんです。

そこで一人でいる。自習なり、本を読むなりしていたんですが、そうではなくて、今ある稲美中学校のふれあいルームというのは、ほんとに明るくて、常時先生がいらっしゃって、授業のない先生方が頻りに訪れる、話をしに来て下さるということで、孤独感を味わわないでいられる場所です。

何となくちょっとしんどいから行くっていうイメージで、逃げていると感じるところも他の子にとってはあるかもしれない。

そこで何時間かいて、やっぱり教室に戻って頑張ろうと思えるような子達もいると聞いていますので、良い傾向にあるのではないかと思います。

#### 教育長

ぜひ中学校にも伝えてあげてください。

#### 瀧口課長

中学校の方では、担当授業の空き時間の先生で時間割を組んでいただいて、できるだけ関わっていただいています。校内ふれあいルームは、登校に課題がある子だけではなくて、本当に、日々授業でちょっとしんどかったというようなところでも、利用していただくということで、学校の方でお伝えしています。でも、最初はやっぱり先生方には、たまり場になるのではないかという心配もあったんですが、そういうことはなく、誰が行くかというのはちゃんとわかって、利用していただいているので、うまくいっていると思います。また、学校の方にもお伝えしたいと思います。

#### 教育長

もう1点、はたちのつどいということで、記念の写真を撮るときに、どうしても町内の両中学校の出身者でないと居る場所というか、そういうのがあってちょっと寂しい思いをさせた人達もいるんですが、今年はどんな計画でしょうか。

#### 中嶋課長

写真屋さんに相談させていただくと、撮影単位っていうのはやはり2クラスぐらいでないと、小さくなってしまうそうです。誰かわからないということになっても困りますということになりました。会場の受付で案内する時に、稲美中学校か稲美北中学校かという区分もあるんですが、住所、あいうえお順で、どちらの校区かということで区別して、それぞれの校区に案内します。

これでいけば小学校の同級生がいるでしょうから、声をかけ合って案内してねということで、実行委員会で話し合ってくださいました。別にするのもやっぱり寂しいという、実行委員の意見もありました。声をかけて知っている子のところに行ってもらったら良いのではという話になりましたので、クラスプラス校区の出身者でというような形で案内にしようということで考えております。

## 教育長

他に何かご意見はございませんか。

ご意見がないようですので、以上で、本日の議事はすべて終了しました。

なお、次回定例教育委員会は、1月25日(木)ですので、よろしく願いいたします。

それでは、これで本日の会議を閉会といたします。

本年は本日が最後です。来年もよろしく願いいたします。

本日は大変お疲れ様でした。ありがとうございました。